

意見書

竺沙知章（京都教育大学）

はじめに

本意見書は、令和 6 年度の教育委員会事務事業総括書について、宮津市教育大綱・教育振興基本計画に基づき、令和 6 年度市政資料集、令和 6 年度決算事業等説明資料、並びにWEB上で公開されている資料などを参考にして、意見をまとめたものである。

宮津市が新しい教育の創造に向けて、一貫して活発に取り組を進められている点が印象的である。今年度もそうした取り組みを中心に、宮津市教育委員会の事務事業について点検し、気が付いた点を述べることにした。

1. 総合教育会議と教育委員会会議について

令和 6 年度の総合教育会議では、「子どもたちの多様な学びの場の実現に向けて」が議題とされ、「宮津市学力向上プラン×宮津の新たな学び創造事業」について、また「子どもの新たな居場所づくり」について、特に不登校の問題について重要な意見交換がなされていたと思う。新しい学びを創造する未来志向の取り組みと現状の多様な子どもの実態に丁寧に向き合った取り組みを並行して進めておられることがわかる。両者を「多様な学びの場の実現」として同じカテゴリーで関連づけながら進めることが必要であり、総合教育会議において適切な議論が展開されていたと思う。

教育委員会会議は、例年通り、定例会 12 回、臨時会 2 回、合計 14 回開催された。いずれの会議でも議事に入る前の教育長報告において、市の状況が丁寧に、要領よく伝えられている。その後、教育長からの報告についての質疑や、教育委員から参加した学校行事などの報告も丁寧になされている。このような教育委員会会議の記録を見ると、宮津市の学校教育の現状や教育長をはじめ教育委員の方々がどのように学校教育に関わり、どのようなことを感じておられるのか、よく理解できる。その中で、養老小学校と府中小学校の再編後の状況について報告がなされており、丁寧な対応をしておられることが伝わってくる。教育委員会の役割を適切に果たしておられると思う。

2. 基本方針 1 心豊かで生きがいのある人生を創造する学びの推進について

高校・大学・地域連携推進事業が注目される。宮津市が高校や大学、地域との連携を進めようとするもので、これまで教育委員会が取り組んできた施策を飛躍的に拡大させるものである。それは、高校大学連携コーディネーター、高校地域連携コーディネーターを配置して、連携を強化しながら、宮津市内高等学校・宮津市連携推進会議を開催して意見交流を図る機会を設定するなど、高等学校、大学そして地域の事業者との交流の場を創り出す取り組みである。さらにこの事業は高校生が地域創生にもかかわるものであり、全国に発信し、他の地域とも交流するものである。こうした取り組みは、高等学校の魅力化を目指すものであることから、一般的には都道府県主導で取り組まれるものであり、そうした事業を宮津市が積極的に取り組んでいることは、高い意欲に支えられた挑戦的で画期的な取り組みとして高く評価されると思う。またこの事業は、「ふるさとみやづ学」の構築に位置づけられるものであり、それは小中学校での「ふるさとみやづ学」のその後の取り組みになることから、宮津市の学校教育の充実にもつながるものである。中学校から高等学校への接続を豊かなものにすることも期待される。

3. 基本方針 2 明日のみやづを創り上げる人間性豊かな子どもの育成について

令和 6 年度においても「宮津の新たな学びの創造事業」が充実しており、魅力的な取り組みがなされ、成果が表れているように思う。まずコミュニケーション教育については、令和 5 年度に取り組まれたカリキュラムやモデル授業の開発を踏まえて、宮津小学校 6 年生と宮津中学校 1 年生を対象に、年 3 回のワークショップ型・双方向型のアクティブラーニングが実施されており、試行実施から本格実施に発展している。まだまだ取り組み始めたばかりであることから、自らの実践になりきっていないと思われるが、経験を重ねる中で宮津市ならではの実践になるように成熟させていただきたいと思う。実践により児童生徒にどのような変化があるのか、また教員自身にどのような変化があるのか、じっくりと見つめることが大切であると思う。

「学びの深化プロジェクト」は、2 年目の取り組みとなり、実施要項に沿って着実に進められているように思われる。このプロジェクトは、主体性、学びあい、挑戦といった重要なキーワードが多くちりばめられ、それらが響きあうような形で学びが深まっていくような印象を受ける。さらに教員自身の学びもプロジェクトに組み込まれ、教員自身が実践研究し、それを研修などで交流し、高めあうような関係が作られつつあるように思う。「TEAM GALAPAGOS」の取り組みはとても魅力的である。

特筆すべきは、宮津中学校の由利敬亮教諭が、一般社団法人日本教育情報化振興会主催の「ICT 夢コンテスト 2024」に応募し、見事、優良賞を受賞したことである。その成果物である中学生が作成した「おしごとマガジン」については、新聞でも取り上げられ大いに注目を浴びたものである。総合的な学習の時間で取り組まれてきた探究、課題解決学習の実践が大きな成果を上げ始めていると見ることができるであろう。

その他、宮津市においても、不登校児童生徒数の増加が、小学校、中学校ともに歯止めがかからない状況が続いている。「校内フリースクール」の設置、運営も始められ、新たな体制で不登校の児童生徒に向き合おうとしている。不登校児童生徒の増加をどのような問題としてみるべきなのか、不登校児童生徒に向き合う実践の中で考え続けることが必要であろう。

4. 基本方針 4 豊かな歴史文化の継承・活用について

令和 5 年度に文化庁より認定された「文化財保存活用地域計画」の初年度にあたり、宮津市文化財保存活用推進協議会が設置され、事業を推進する体制が整えられたと言える。「ふるさとみやづ学」や「子ども学芸員」など子どもがかかわる事業が重要であり、魅力的であると思う。歴史や文化を次の世代に継承していくことが大切であり、子どもたちが歴史や文化に触れることにより、その生き方を豊かなものにしていくことが期待される。文化財は保存することが目的ではなく、それらが日々の暮らしの中に生かされることが求められると思う。そのために保存し、継承し、活用することが必要となるであろう。計画が着実に進められることを期待したい。

おわりに

宮津市の取り組みを見ていると、子どもたちが探究などの取り組みにより、「おしごとマガジン」を発行するなど新たな挑戦を行い、学校の校長や教員が主体的な研修に積極的に取り組み、挑戦を行い、そして教育委員会が高校・大学・地域連携推進事業に取り組む、市の教育行政の枠組みを超える挑戦を行っていると思う。市全体で新たな挑戦に取り組む活気を感じることができる。ますますの発展を祈りたい。